

# 「私のもとに来る人を 私は決して追い出さない」

ヨハネ 6章37節



兄弟姉妹の皆さま

晩秋の候、兄弟姉妹の皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。日ごとご苦労を重ねながら仕事に励んでおられることと思います。

11月に入りました。11月には諸聖人の日をはじめ、死者の日があり、聖カロロ・ボロメオ司教、ラテラン教会の献堂、聖レオ1世教皇教会博士、聖マルチノ（ツール）司教、聖ヨサファト司教殉教者、聖エリザベト（ハンガリー）修道女、聖マリアの奉献、聖セシリアおとめ殉教者、聖アンデレ・ジュン・ラク司祭と同志殉教者、聖アンデレ使徒の祝日や記念日があります。また、皆様をご存じの通り11月は帰天された方々を追悼する月です。

死者の月にあたり、私たちは「地上を去った靈魂」を追悼します。この言葉は非常に遠くのことに感じ、人間味のないものに聞こえます。でも大切な人の死は決して遠く離れたものではありません。それは配属者や親や子、友人です。彼らは私たちの最愛の死者であって、喪失感是非常に深淵なものになります。私たちは彼らとのつながりがすべて失われたかのように感じ、悲嘆に暮れて善意を疑うことさえあるのです。今月、死者を記念することは、私たちと帰天された大切な人たち両方にとって賜物です。死者の月は、洗礼によってキリストと結ばれた私たちがキリストの兄弟姉妹であることを思い出させます。イエス様を通して、私たちは生きていても死んでもすべての兄弟姉妹と終ることのない交わりに結ばれています。これは私たちの祈りと愛が次の世まで届くことを意味するのです。彼らのために祈るとき私たち自身の信仰は一層強いものへと成長していくのです。

ヨハネによる福音6章37-40の中でイエス様が素晴らしい約束をなさっています。「私のもとに来る人を、私は決して追い出さない」 「私のもとに来る」ことは、死ぬときのことと考えるかもしれませんが、実は洗礼を通してキリストと結ばれたすべての人の生涯のことです。イエス様は慈しみ深いお方ですので、私たちがごく小さな信仰と心の底からの悔い改めをもって神の掟に忠実に従い神の道を歩むなら、私たちが何をしてきたとしても神は私たちを清め癒してください。この約束の中に、私たちは大切な人が死んだ後でもこの癒しをいただけるよう祈る勇気を見出すのです。大切な人を迎え入れてくださる命の源である主は、私たちが死を迎えるときもまた、私たちを癒し歓仰してくださると信頼する勇気を与えてくださいます。

今月、諸聖人の祈りと共に、帰天されたすべての人が主と完全に結ばれるように祈ります。今月の聖人の祈りの支えによって、今月を無事に過ごせますように。兄弟姉妹皆様のご家族の上に、また皆さまのお仕事、ご奉仕に神の豊かな恵みが注がれますように上野毛教会から祝福とお祈りをお贈りいたします。(Deus Providebit)

2022年11月

カトリック上野毛教会 主任司祭  
ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.